

授業改善推進プラン〈学年別〉

04 練馬区立豊玉第二小学校

1年	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期は平仮名と片仮名の学習を一通り進めたため、言語指導に時間を要し、その分読むことや書くことの指導時間が不十分だった。音読・繰り返し練習は宿題で補うようにした。 ・自分の考えを発表することはできるが、伝え合いの力が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語指導の時間は、宿題と合わせて基礎学習の時間を活用する。 ・読むこと、書くことを計画的に指導し増やしていく。 ・伝え合いの活動を多く入れるようにし、隣同士のペア、グループ、クラス全体と段階的に人数を増やすことで心的な抵抗をなくし、技能を引き上げていく。 	○
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の技能が十分とはいえない。指を使う児童が見られる。 ・問題の読み取りや立式の力が全体的に不十分である。自分で問題文を読んで意味を理解できない。 ・個人差が大きく、個別指導が必要な児童がかなりいて、支援が不十分だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日計算カードを使った計算の宿題を出し、継続的に計算練習を行わせる。 ・なかなか計算力が身に付かない児童には、具体的な操作活動を多く取り入れ、理解を助ける。 ・問題文の意味を正しく理解できるように、キーワードに着目して取り組むように支援する。 ・一斉指導とともに、進度に応じた個別課題や個別学習の場を設定する。可能な限り支援員の学習支援を得られるようにする。 	○
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の草花等の環境の関係で、計画通りに進められないことがあった。季節の草花の観察、虫等生き物の観察ができなかった。 ・感染症予防のため、夏の遊び等実施できない内容があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に合わせて、見通しをもって児童の実態に合った内容を計画する。 ・感染症予防対策を取りながら、その代わりとしてねらいに沿って実施できる内容・活動を考えて取り入れていく。(例 色染め・押し花等) 	○
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽の鍵盤ハーモニカでは、正しい運指や息づかいで演奏することが難しい児童がいる。 ・歌唱では、正しい音程で歌ったり、まわりの音をよく聴いて合わせて歌ったりすることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物投影機を用い、児童が正しく運指や鍵盤の位置を覚えられるようにする。必要に応じて個別指導を行う。児童同士での教え合いができるよう座席の工夫をする。 ・良い表情で歌っている児童や大きな口を開けて歌っている児童を前に出して歌わせ、その良さを他の児童が模倣できるようにする。自分の声と教師の範唱を比較して歌う活動を取り入れることで、音程のずれを児童自身が認識できるようにする。 	○
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣や体験の違いにより、道具や材料の取り扱い方に幅がある。 ・初めて扱う材料に不安な気持ちをもつことがないように、安心して取り組めるような環境設定が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や季節の行事と関連づけた課題を取り入れ、共通の体験をする。 ・題材の導入時に、取り扱う道具や材料の基礎を養う課題を用意し、造形遊びを中心とした活動で、道具や材料の取り扱い方を自然に身に付けさせる。 	○
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・かけっこやマットを使った運動等において、感染症予防のため、実施や運動量の確保の兼ね合いが難しい。 ・体を動かす楽しさを味わう運動・友達とかかわり合う運動・基本的な動きを身に付ける運動を意図的に取り入れたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の運動経験を踏まえ、無理のない範囲でグループ分けや児童同士の教え合いなどを取り入れる。感染症予防に気を付けながら、45分間の運動量を増やしていく。 ・学習カードを工夫し、児童が運動に主体的に取り組めるように支援する。 	○

授業改善推進プラン〈学年別〉

04 練馬区立豊玉第二小学校

2年	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・人前で自分の考えや意見を発表することに自信をもてない児童が見られる。 ・原稿用紙の使い方の定着がまだ不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策をした上で可能な範囲で話し合い活動の機会を増やしていく。隣の友達とや小グループなどで発言回数を保証し、少しずつ自信をもてるようにする。スモールステップを踏みながら、全体での発表につなげていく。 ・ワーク等を活用し、授業や家庭学習を通して繰り返し練習させ、定着を図る。 	○
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・計算力には個人差が見られ、部分的に個別的な指導が必要な児童がいる。 ・計算力はあっても、文章問題の立式を苦手としている児童が一部見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や家庭学習を通して、基礎基本が身に付くよう、反復練習をさせる。 ・問題文を書くときに、分かっていることと、問われていることを確認する。必要に応じて図や絵に表すことで問題の場面を理解できるようにさせる。また、友達の式から考えを読む活動などを通して、理解を深めさせる。 	○
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の重なりや猛暑による熱中症等の心配もあり、町探検の校外学習を二学期に見送った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の前に受け入れてもらっていた施設を確認し、二学期に可能な範囲で町探検の校外学習を実施し、学習を進めていく。 	○
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱では、範唱をよく聴いて正しい歌詞やリズムで歌うことができるようになってきているが、フレーズを意識したり、曲に合った発声で歌ったりすることにはまだ難しい。 ・器楽の鍵盤ハーモニカでは、技能の差が始めている。運指も難しくなってくるため、混乱してしまう児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉のまとまりを生かして歌詞を音読する活動を取り入れたり、ブレスの位置を意識しフレーズのまとまりを感じとらせる。また、音符についての学習の中で各音符の長さに注目させ、演奏に活かすようにしていく。 ・実物投影機を用い、運指の確認を丁寧に行う。個別学習の時間を取り、児童同士の教え合いも取り入れながら少しずつ定着させていく。 	○
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・全体に多少の幅はあるものの道具や材料の取り扱い方は身に付いてきている。描いたり、作ったりしたものを見て、作品の良さに気付いたり、関心をもったりする機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作過程の中で楽しく見る機会を増やす。時に応じて交換カード等も使う。友達の良さを見付け自分の表現に生かしたり、自分の見方・感じ方を確かめたりできるようにする。 	○
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・マスクを外して思いきり運動する機会が減っているため、体力の低下を感じる。 ・ソフトボール投げや、ボールなどを扱った用具操作の運動に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の時間の運動量を増やすとともに、休み時間も天気の良い日は外で体を動かして遊ぶようにさせることで、体力の向上を図る。 ・領域ごとに特性に応じた感覚づくりの運動を一単位時間の中で取り入れ、主運動につなげていくようにする。 	○

授業改善推進プラン〈学年別〉

04 練馬区立豊玉第二小学校

3年	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書くときに習った漢字を活用することが苦手な児童がいる。 自分の意見をうまくまとめられない児童がいる。 作文を書く際に、自分の意見を筋道立てて書くことができる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学習の際に、頻出単語を取り上げる。 書き方を理解させるために、作文指導を行う。5W1Hを意識させて、文章を書かせたり、文章構成を指導していく。 	◎
社会	<ul style="list-style-type: none"> 地図などの情報を基に、自分たちの生活に学習した知識を関連付けることがあまりできない児童がいる。 地図やグラフなどの読み取りができない。 コロナの影響で、見学に行くことができないので、実感を伴った理解が深まらない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容が児童の生活経験と結び付くように授業の展開を工夫する。また、自分たちの住んでいるまちに関心がもてるようにする。 地図やグラフの読み方を提示し、児童自身で読み取る活動を増やす。 児童の身近な資料を用意したり、動画を見せたりして授業を行う。 	○
算数	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に基礎的な知識や技能を習得しているが身に付いていない児童もいる。計算でのつまずきが見られる。 課題の意図をつかめない児童や言葉の支援が必要な児童がいる。自力解決に意欲をもち発表もすすんで行うが、解決方法を筋道立てて表現することは、まだ十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の始まりの時間や家庭学習などで計算練習に取り組む。 教材を工夫し、アレイ図や数直線などを活用して、個々の支援を行い、積極的に問題解決に取り組めるようにする。課題の題意を捉える時間を確保し、問題を整理しながら筋道を立てるよう支援していく。 	○
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察、実験に興味、関心をもち、意欲的に取り組んでいるが、観察、実験から得たことを考察することが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験から得られた知識が、身近な生活の中でどこで生かされているかを児童に想起させる。また、授業のまとめにおいて、学習した知識を児童に質問しながら知識の定着を図る。 	◎
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 器楽のリコーダーでは、運指はほぼ定着している。息の入れ方や穴のふさぎ方に課題があるため、音が安定しない。 リズム譜は、ほとんどの児童が正しく読むことができるが、階名を正しく読むことにはまだ課題がある。 歌唱においては、低学年の元気いっぴいな声から、響きの統一された歌声に変えていきたい。 鑑賞においては、感性を働かせて自分なりに曲の背景を想像したり、感じ取ったことをワークシートに記入したりすることができる。しかし、曲の雰囲気・表情などと音楽の構造との関わり合いを捉えながら聴くことはまだ難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 演奏する際の姿勢や息の入れ方、穴の塞ぎ方を確認しながら練習させる。継続した練習の大切さを説明しながら根気強く取り組ませる工夫をする。また、個別指導でそれぞれのつまずきに応じた支援を行っていく。長期休業中を利用し家庭でも継続して練習に取り組ませる。 階名読みを定着させるためにフラッシュカード等を用いて、クイズ形式で確認する時間を設けたり、時間を設定して階名読みに集中して取り組めるワークシートを用意する。 聴き合う時間を適宜とり確認させながら響きのある歌声にまとめていく。 児童から出た意見が、感じ取ったことなのか、聴き取ったことなのかを整理し板書するようにする。また2つがどのように関わり合っているかを理解させ結びつけていく。 	○
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや願いを生かしたものを作ったり、表したりすることには、積極的かつ意欲的である。描いたり作ったりしたものを見て、作品の良さに気付いたり関心をもったりする機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 制作過程の中に、楽しく見る機会を増やす。時に応じて鑑賞カード等も使う。友達の良さを見付け、自分の表現に生かしたり、自分の感じ方を確かめたりできるようにする。 	○
体育	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に取り組む児童が多い。運動が得意な児童と不得意な児童の二極化が見られる。 ボールを狙った方向に投げられない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な技能が身に付いている子には、安全面を考慮して、さらに発展的な運動ができるようにする。 友達同士で支え合ったり教え合ったりする仕組みを作る。 体を回転させたり、体重移動を意識させたりして投げることを指導する。 	○

授業改善推進プラン〈学年別〉

04 練馬区立豊玉第二小学校

4年	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字が定着しない児童がおり、文章の中で正しく使うことができるように漢字の習熟に関する指導を充実させる必要がある。 物語文などの読み取りを広める際に、発言する児童が一部に偏ってしまいがちである。 自分の考えを文章に表せない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の小テストを定期的に行う。 漢字ドリルや漢字ドリル用ノートを使って、日常的な指導を図る。 教材研究をし、読み取りを深められるような授業の展開(個人一ペアー全体)をし、学び合いの場面を取り入れていく。 感想の書き方や要点のまとめ方を提示し、慣れさせていく。 	○
社会	<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習や新聞やレポート等に意欲的に取り組むことはできるが、自分たちの生活に関連付けることがまだ不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入から自分たちの生活に結び付けられるような発問をする。 ICT機器を活用して写真や映像などを見せたり、社会科見学や出前授業を実施したりすることで、身近なものや社会的な事象と関連付けて考えさせ、自分たちで実践できることを考えられるようにする。 	○
算数	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識・技能の習得に差がある。 自力解決のとき、既習事項をもとにして問題を解決する方法がなかなか見いだせない児童や、考えをうまく表現できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な児童に対し個別の支援を行うようにする。また、教材教具を工夫し、操作を通じて自力解決していけるようにする。継続的に計算ドリルに取り組み、基礎的な知識・技能の定着を図る。 既習事項をもとにして問題を解決できるように授業展開を工夫する。 自分なりの解決方法を見いだせるように、自力解決の時間を多く確保する。 	○
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察・実験に興味・関心をもって取り組むことができるが、取り組み方や記録の仕方には個人差が見られる。問題解決型学習の仕方がまだ十分定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察・実験の方法・記録の仕方について、視覚的に捉えられるようにする。また、問題解決型の学習を継続的に行い、理解の定着を図る。 	○
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 器楽ではリコーダーの技能面での個人差が大きく、運指や息づかいのコントロールが難しい児童がいる。 歌唱においては、正しい音程で歌うことが難しい場合もあるが、斉唱から部分二部合唱へと発展させた学習へと進めている。 鑑賞においては、ほとんどの児童が曲の特徴を捉えたり、感じ取ったことをワークシートに書いたりすることができる。しかし、感じ取ったことと、音楽の構造とを関わりながら聴くことについては課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導でそれぞれのつまずきに応じた支援を行う。また、児童同士で教え合う時間を確保しながら進めていく。適宜、補充学習を行う。 自分の声をよく聴き、音程のずれを認識できるよう、教師と児童が交互に歌ったり、友達同士で聴き合ったりする活動を取り入れる。また発声などの基礎練習を計画的・継続的に行っていく。 児童の意見を板書する際に、曲想と音楽の構造に整理しながら書くようにする。また2つがどのように関わり合っているかを考える場面を設定し結びつけられるようにしていく。 	○
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや願いを生かしたものを作ったり表したりすることには、積極的かつ意欲的である。友達と協力したり、認め合ったりして学習する関係づくりが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 制作過程の中で、工夫した表し方や道具や材料の取り扱い方の良さを取り上げて、全員で共有する。作品を見る機会を増やし、制作過程などの良さや、いろいろな表し方のあることに気付かせ、自分の表現に生かすようにさせる。 	○
体育	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に活動できるが、みんなと協力して安全に行動しようとする意識が低い児童がいる。 積極的に取り組んでいるが、どの活動においても技能面には個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供たち自身に課題を意識させ、自分たちで主体的に活動できるようにする。 めあてをもって運動に取り組むことができるようにする。 	○

授業改善推進プラン〈学年別〉

04 練馬区立豊玉第二小学校

5年	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動については、互いの立場や意図を明確にした上で、考えを広げたりまとめたりすることが苦手である。 相手の話を受け取る器が小さい。 文章の読み取りについては、文章の内容を的確におさえることが苦手な児童への手だてが必要である。 筆者の主張に対する自分の考えを、文章に表すことが苦手である。 語彙力が少ない。読書を通じて語彙力を豊かにする必要がある。 漢字の定着に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをもち、意図を的確に伝えられるように、ワークシートなどを活用する。自分の意見と友達の意見を比べながら聞くようにし、考えを広げる。 話し合い活動の際に、聴くことの必要性を確認してから活動する。 文章の展開をおさえながら要旨をつかみ、それに対する自分の考えを書いたり、話したりする活動の場を設定する。 読んだ本の紹介をし合って読んだ本の魅力を伝える活動を取り入れる。 小テストを行い、漢字の定着を図る。 	○
社会	<ul style="list-style-type: none"> どの児童も自分たちの生活とのかかわり合いを考えながら、学習を深めることができるようにする工夫が必要である。 産業に従事している人々の工夫や努力について、具体的に調べることができるようにする。 資料やグラフから気付いたことや分かったこと、考えたことを、自分の言葉で書けない児童への手だてが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフや表など資料を正確に読み取れるように、クラス全体で確認する。人々の工夫や努力に気付いたり、より具体的な内容に注目したりすることができるように話し合いをする機会を設ける。 資料から気付いたことや分かったこと、考えたことなどを書き出し、自分の言葉でまとめる活動を取り入れる。 身近に引き寄せるような題材や資料を準備し、体験的な活動を通して、学習の浸透を図る。 	○
算数	<ul style="list-style-type: none"> 既習の学習を生かし、自分の考えをノートに書いたり説明したりすることを苦手としている児童が多い。 正確な図形を作図することができない児童が多い。 基本的な計算の技能の定着が不十分な児童が多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の確認を丁寧に行い、学んだことを基に考えていけるようにする。 正しい器具の使い方をその都度確認し、類似問題に多く取り組む機会を設定して、定着を図る。 計算問題は、反復練習を行うことにより定着を図る。授業の始まりや家庭学習で反復練習をする。 	○
理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決型の学習が十分に定着していない。生活経験や様々な情報を基に、見通しをもって観察・実験を行うなど、問題解決の活動を行っていくことが必要である。 観察・実験の結果を基に、学習の振り返りや次の問題を発見などを行う考察ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験の予想や結果の記録ができるように、条件や方法、結果など、思考の流れを分かりやすく表現するノート指導を丁寧に行う。 学習問題に対しての仮説を立ててから、問題解決に向けての活動に入るような学習の型を定着させる。 自分で調べたり観察したりして得た情報を整理し、主体的に問題解決できるように、考える時間や話し合う時間を十分に確保する。また、知識だけでなく、自分の言葉で表現できるようにする。 実験の技能が高まるように、教材や器具の充実を図る。 	△
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 英語の発音や、基本的な表現の定着に個人差が大きい。 講師、外国語活動指導員の役割が单元ごとに明確化されておらず、より効果的な指導体制の構築のため、講師、外国語活動指導員との指導内容の共有をどう進めていくかが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵や文字のカードやCDを活用して英語の音声や基本的な表現に親しみやすく学習する。 互いの活動や役割をパターン化して、効果的な指導ができるように工夫する。また、講師を窓口とし、各学年の指導計画や指導内容について外国語活動指導員と打ち合わせる。 	○

授業改善推進プラン〈学年別〉

04 練馬区立豊玉第二小学校

5年	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱に関しては、斉唱であればのびのびと歌えていても、二部合唱になると音程に自信がなくなつられてしまう場面が見受けられる。 ・器楽においては個人差があり、特にリコーダーでは運指や適切な息づかいで吹くことに難しさを感じている児童がいる。 ・ト音譜表を読むことには慣れてきている。一方、ヘ音譜表に関してははまだ読めない児童が多い。 ・鑑賞においては、強弱や速度、音の重なり方などの曲の特徴を捉えることができるようにはなっている。学習したことを自分の言葉でまとめていけるようにしていくことが課題として考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律の動きを手で表現したりと視覚的にも捉えるなど、耳だけの感覚だけではなく覚えさせていく。各パートの旋律を自信をもって歌えるところまで歌わせ、パートごとの並び順も考慮しながら、合わせる楽しさを味わわせた。 ・個別に補充学習を行ったり、児童同士の教え合いも行いながら技能面での個人差を改善していく。 ・階名や音符に慣れるための教材(プリントやフラッシュカード)を使用する。 ・学習したことを自分の中で思考し定着しているか確認しながら学習を進めていく。 	○
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な能力は、児童による多少の幅はあるものの身に付いてきている。 ・造形的向上学習の積み重ねを生かそうとする習慣に幅がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じて素材を増やし、様々な表現ができるような助言をする。 ・時に応じて、用途等も考えて表すことができるような活動内容を設定する。 	○
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・裁縫の技能面では、個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた課題設定を行うようにする。 ・グループ編成を工夫し、児童間で作業をサポートできるようにする。 ・学習活動の流れ、ポイントを児童が把握できるようにする。 	○
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・体力に関しては個人差がある。 ・鉄棒やマットなど器械運動に苦手意識をもっている児童も、意欲的に取り組めるようにするための手だてが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの結果をもとに、それぞれの課題分析を行い、一人一人に合った個別指導ができるように工夫する。 	○

授業改善推進プラン〈学年別〉

04 練馬区立豊玉第二小学校

6年	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感の低さが見られる。 書くことにおいて、自分の経験に価値付けて、文章表現することが弱い。 読書の活動に興味・関心を示す児童とそうでない児童の個人差がある。 漢字の定着に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の学習活動を通しての取組を価値付け、児童の考えや思いから、学習計画や単元を通じた問いを作成していく。 題材の工夫をする。児童に身近な題材を考え、書くことへの意欲をもたせる。 本に触れる機会の充実を図る。図書室の活用や練馬図書館と連携し、児童の実態に合った図書の充実を図る。 小テストを行い、漢字の定着を図る。 	○
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料から必要な情報を的確に読み取る技術が乏しい。 学習問題を設定したあと、追究していく意欲が単元を通して持続しない。 歴史的事象と現代社会を結びつけて捉えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書、資料を基に必要な情報を読み取る時間を十分に確保する。 歴史の単元では、人物調べを一貫して行う。歴史上の人物を調べることで時代の様子や功績などを追究して調べていく力を養う。 歴史的事象との結びつきを常に考えさせる問いを投げかけ、資料提示や映像資料などを活用して捉えさせる。 	○
算数	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識・技能の定着が不十分な児童が見られる。 公式などおさえるべき事項は定着しているが、公式の意味や正しい立式につなげていくことができない場面が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的基本的な学習事項を確実に身に付けさせるように、少人数指導の充実(教材の工夫、個別指導)に努める。 公式の意味や必要性を考え、共通認識のもとで活用できるようにしていく。いろいろな文章問題をじっくりと読み、問題場面をイメージさせながら公式の利活用の場面を増やし定着させていく。 	○
理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決型の学習が定着していない。 観察・実験の結果を基に、学習の振り返りや次の問題を発見などを行う考察ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験や様々な情報を基に、見通しをもって観察・実験を行うことで、問題解決型の学習につなげる。 自分で調べたり観察したりして得た情報を整理し、主体的に問題解決できるように、考える時間や話し合う時間を十分に確保する。また、知識だけでなく、自分の言葉で表現できるようにする。 	○
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 英語力の個人差が大きい。 スピーチをしていくための見通しがもてていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 協働的な学びができるように、能力がある児童をうまく活用し、グループで助け合って学習していくスタンスを取り入れる。 教師やALTがスピーチのモデルを毎単元準備し、イメージと意欲をもって取り組ませる。 	○
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱においては、自然な発声でのびのびと表現することができている。しかし、男子の中には変声期に入ったことで自信をもって歌うことができない様子の児童もいる。 器楽に関しては個人差が大きい。 鑑賞においては、曲想の変化に気付くことはできるが、その曲のおもしろさや美しさを感じ取りながら聴き良さを見いだしていくことにつなげていけると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 変声期を迎えた児童には、個別指導でその時期ごとの配慮を考えていく。変声期について全体で取り上げ、どの児童ものびのびと声の出せる雰囲気作りを行っていく。 個人の能力差を埋めるため、友だち同士で協力して音楽活動を進められるようにする。 音楽を構造的に理解できるよう、板書や視覚教材の工夫をする。曲を聴く際の視点を明確にすることで味わって聴き、良さを見いだせるようにする。 	○
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 造形的な能力は、身に付いてきているが、個人差があったり教師の指示に頼ったりすることが多い。 自分の感覚や考えを大切に物事を捉えるのではなく、他から得た知識や友達の考えなどを基にして考えたり創造したりする傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階に応じ、抵抗感ある素材でも選択を試みるよう助言する。 単元によっては、作品の用途等も考えて表すことができるような活動内容を設定する。 小学校卒業の節目を意識させることで、自分の感覚や考えを十分に働かせて取り組める題材設定をする。 	○

授業改善推進プラン＜学年別＞

04 練馬区立豊玉第二小学校

6年	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・技能面での個人差が大きく、同じように課題に取り組ませることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた課題設定を行うようにする。 ・グループ編成を工夫し、児童間で支援し合える環境を整備する。 	○
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・領域によって苦手意識がある。 ・体力テストの結果から体力の全体的な低下が見られる。 ・体を動かす心地良さを味わえていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての領域において学習カードを作成し、課題や成果を見える化する。また、板書の掲示資料を用いて、学習の見通しをもたせる。 ・体力テストの結果を基に、体力の弱い部分を把握し、学習する中で身に付けさせる指導計画を立てる。 ・運動する楽しさを味わわせるために学級の実態や個人差を把握し、それぞれの技能に合わせた練習の場やトリオ学習の実践する。 	○

入力が終わった箇所は網掛をとってください。

図工	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
1年	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣や体験の違いにより、道具や材料の取り扱い方に幅がある。 初めて扱う材料に不安な気持ちをもつことがないように、安心して取り組めるような環境設定が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校や季節の行事と関連づけた課題を取り入れ、共通の体験をする。 題材の導入時に、取り扱う道具や材料の基礎を養う課題を用意し、造形遊びを中心とした活動で、道具や材料の取り扱い方を自然に身に付けさせる。 	○
2年	<ul style="list-style-type: none"> 全体に多少の幅はあるものの道具や材料の取り扱いは身に付いてきている。描いたり、作ったりしたものを見て、作品の良さに気付いたり、関心をもったりする機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 制作過程の中で楽しく見る機会を増やす。時に応じて交換カード等も使う。友達の良さを見付け自分の表現に生かしたり、自分の見方・感じ方を確かめたりできるようにする。 	○
3年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや願いを生かしたものを作ったり、表したりすることには、積極的かつ意欲的である。描いたり作ったりしたものを見て、作品の良さに気付いたり関心をもったりする機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 制作過程の中に、楽しく見る機会を増やす。時に応じて鑑賞カード等も使う。友達の良さを見付け、自分の表現に生かしたり、自分の感じ方を確かめたりできるようにする。 	○
4年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや願いを生かしたものを作ったり表したりすることには、積極的かつ意欲的である。友達と協力したり、認め合ったりして学習する関係づくりが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 制作過程の中で、工夫した表し方や道具や材料の取り扱い方の良さを取り上げて、全員で共有する。作品を見る機会を増やし、制作過程などの良さや、いろいろな表し方のあることに気付かせ、自分の表現に生かすようにさせる。 	○
5年	<ul style="list-style-type: none"> 造形的な能力は、児童による多少の幅はあるものの身に付いてきている。 造形的向上学習の積み重ねを生かそうとする習慣に幅がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階に応じて素材を増やし、様々な表現ができるような助言をする。 時に応じて、用途等も考えて表すことができるような活動内容を設定する。 	○
6年	<ul style="list-style-type: none"> 造形的な能力は、身に付いてきているが、個人差があったり教師の指示に頼ったりすることが多い。 自分の感覚や考えを大切に物事を捉えるのではなく、他から得た知識や友達の考えなどを基にして考えたり創造したりする傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階に応じて素材を増やし、様々な表現ができるように工夫をする。素材の選択を試みるよう助言する。 単元によっては、作品の用途等も考えて表すことができるような活動内容を設定する。 小学校卒業の節目を意識させることで、自分の感覚や考えを十分に働かせて取り組める題材設定をする。 	○

入力が終わった箇所は網掛をとってください。

音楽	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽の鍵盤ハーモニカでは、正しい運指や息づかいで演奏することが難しい児童がいる。 ・歌唱では、正しい音程で歌ったり、まわりの音をよく聴いて合わせて歌ったりすることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物投影機を用い、児童が正しく運指や鍵盤の位置を覚えられるようにする。必要に応じて個別指導を行う。児童同士での教え合いができるよう座席の工夫をする。 ・良い表情で歌っている児童や大きな口を開けて歌っている児童を前に出して歌わせ、その良さを他の児童が模倣できるようにする。自分の声と教師の範唱を比較して歌う活動を取り入れることで、音程のずれを児童自身が認識できるようにする。 	○
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱では、範唱をよく聴いて正しい歌詞やリズムで歌うことができるようになってきているが、フレーズを意識したり、曲に合った発声で歌ったりすることにはまだ難しい。 ・器楽の鍵盤ハーモニカでは、技能の差が出始めている。運指も難しくなってくるため、混乱してしまう児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉のまとまりを生かして歌詞を音読する活動を取り入れたら、ブレスの位置を意識しフレーズのまとまりを感じとらせる。また、音符についての学習の中で各音符の長さに注目させ、演奏に活かすようにしていく。 ・実物投影機を用い、運指の確認を丁寧に行う。個別学習の時間を取り、児童同士の教え合いも取り入れながら少しずつ定着させていく。 	○
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽のリコーダーでは、運指はほぼ定着している。息の入れ方や穴のふさぎ方に課題があるため、音が安定しない。 ・リズム譜は、ほとんどの児童が正しく読むことができるが、階名を正しく読むことにはまだ課題がある。 ・歌唱においては、低学年の元気いっぴいな声から、響きの統一された歌声に変えていきたい。 ・鑑賞においては、感性を働かせて自分なりに曲の背景を想像したり、感じ取ったことをワークシートに記入したりすることができる。しかし、曲の雰囲気・表情などと音楽の構造との関わり合いを捉えながら聴くことはまだ難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏する際の姿勢や息の入れ方、穴の塞ぎ方を確認しながら練習させる。継続した練習の大切さを説明しながら根気強く取り組ませる工夫をする。また、個別指導でそれぞれのつまずきに応じた支援を行っていく。長期休業中を利用し家庭でも継続して練習に取り組ませる。 ・階名読みを定着させるためにフラッシュカード等を用いて、クイズ形式で確認する時間を設けたり、時間を設定して階名読みに集中して取り組めるワークシートを用意する。 ・聴き合う時間を適宜とり確認させながら響きのある歌声にまとめていく。 ・児童から出た意見が、感じ取ったことなのか、聴き取ったことなのかを整理し板書するようにする。また2つがどのように関わり合っているかを理解させ結びつけていく。 	○
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽ではリコーダーの技能面での個人差が大きく、運指や息づかいのコントロールが難しい児童がいる。 ・歌唱においては、正しい音程で歌うことが難しい場合もあるが、斉唱から部分二部合唱へと発展させた学習へと進めている。 ・鑑賞においては、ほとんどの児童が曲の特徴を捉えたり、感じ取ったことをワークシートに書いたりすることができる。しかし、感じ取ったことと、音楽の構造とを関わらせながら聴くことについては課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導でそれぞれのつまずきに応じた支援を行う。また、児童同士で教え合う時間を確保しながら進めていく。適宜、補充学習を行う。 ・自分の声をよく聴き、音程のずれを認識できるように、教師と児童が交互に歌ったり、友達同士で聴き合ったりする活動を取り入れる。また発声などの基礎練習を計画的・継続的に行っていく。 ・児童の意見を板書する際に、曲想と音楽の構造に整理しながら書くようにする。また2つがどのように関わり合っているかを考える場面を設定し結びつけられるようにしていく。 	○
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱に関しては、斉唱であればのびのびと歌えていても、二部合唱になると音程に自信がなくなってしまう場面が見受けられる。 ・器楽においては個人差があり、特にリコーダーでは運指や適切な息づかいで吹くことに難しさを感じている児童がいる。 ・ト音譜表を読むことには慣れてきている。一方、ヘ音譜表に関してはまだ読めない児童が多い。 ・鑑賞においては、強弱や速度、音の重なり方などの曲の特徴を捉えることができるようになってきている。学習したことを自分の言葉でまとめていけるようにしていくことが課題として考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律の動きを手で表現したりと視覚的にも捉えるなど、耳だけの感覚だけではなく覚えさせていく。各パートの旋律を自信をもって歌えるところまで歌わせ、パートごとの並び順も考慮しながら、合わせる楽しさを味わわせたい。 ・個別に補充学習を行ったり、児童同士の教え合いも行いながら技能面での個人差を改善していく。 ・階名や音符に慣れるための教材(プリントやフラッシュカード)を使用する。 ・学習したことを自分の中で思考し定着しているか確認しながら学習を進めていく。 	○
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱においては、自然な発声でのびのびと表現することができる。しかし、男子の中には変声期に入ったことで自信をもって歌うことができない様子の児童もいる。 ・器楽に関しては個人差が大きい。 ・鑑賞においては、曲想の変化に気付くことはできるが、その曲のおもしろさや美しさを感じ取りながら聴き良さを見いだしていくことにつなげていけると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・変声期を迎えた児童には、個別指導でその時期ごとの配慮を考えていく。変声期について全体で取り上げ、どの児童ものびのびと歌える雰囲気作りを工夫していく。 ・個人の能力差を埋めるため、友だち同士で協力して音楽活動を進められるようにする。 ・音楽を構造的に理解できるよう、板書や視覚教材の工夫をする。曲を聴く際の視点を明確にすることで味わって聴き、良さを見いだせるようにする。 	○

国語	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期は平仮名と片仮名の学習を一通り進めたため、言語指導に時間を要し、その分読むことや書くことの指導時間が不十分だった。音読・繰り返し練習は宿題で補うようにした。 ・自分の考えを發表することはできるが、伝え合いの力が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語指導の時間は、宿題と合わせて基礎学習の時間を活用する。 ・読むこと、書くことを計画的に指導し増やしていく。 ・伝え合いの活動を多く入れるようにし、隣同士のペア、グループ、クラス全体と段階的に人数を増やすことで心的な抵抗をなくし、技能を引き上げていく。 	○
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・人前で自分の考えや意見を發表することに自信をもてない児童が見られる。 ・原稿用紙の使い方の定着がまだ不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策をした上で可能な範囲で話し合い活動の機会を増やしていく。隣の友達とや小グループなどで発言回数を保証し、少しずつ自信をもてるようにする。スモールステップを踏みながら、全体での発表につなげていく。 ・ワーク等を活用し、授業や家庭学習を通して繰り返し練習させ、定着を図る。 	○
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を書くときに習った漢字を活用することが苦手な児童がいる。 ・自分の意見をうまくまとめられない児童がいる。 ・作文を書く際に、自分の意見を筋道立てて書くことができる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の学習の際に、頻出単語を取り上げる。 ・書き方を理解させるために、作文指導を行う。5W1Hを意識させて、文章を書かせたり、文章構成を指導していく。 	◎
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字が定着しない児童がおり、文章の中で正しく使うことができるように漢字の習熟に関する指導を充実させる必要がある。 ・物語文などの読み取りを広める際に、発言する児童が一部に偏ってしまいがちである。 ・自分の考えを文章に表せない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の小テストを定期的に行う。 ・漢字ドリルや漢字ドリル用ノートを使って、日常的な指導を図る。 ・教材研究をし、読み取りを深められるような授業の展開(個人一ペアー全体)をし、学び合いの場面を取り入れていく。 ・感想の書き方や要点のまとめ方を提示し、慣れさせていく。 	○
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動については、互いの立場や意図を明確にした上で、考えを広げたりまとめたりすることが苦手である。 ・相手の話を受け取る器が小さい。 ・文章の読み取りについては、文章の内容を的確におさえることが苦手な児童への手だてが必要である。 ・筆者の主張に対する自分の考えを、文章に表すことが苦手である。 ・語彙力が少ない。読書を通じて語彙力を豊かにする必要がある。 ・漢字の定着に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもち、意図を的確に伝えられるように、ワークシートなどを活用する。自分の意見と友達の意見を比べながら聞くようにし、考えを広げる。 ・話し合い活動の際に、聴くことの必要性を確認してから活動する。 ・文章の展開をおさえながら要旨をつかみ、それに対する自分の考えを書いたり、話したりする活動の場を設定する。 ・読んだ本の紹介をし合って読んだ本の魅力を伝える活動を取り入れる。 ・小テストを行い、漢字の定着を図る。 	○

国語	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感の低さが見られる。 ・書くことにおいて、自分の経験に価値付けて、文章表現することが弱い。 ・読書の活動に興味・関心を示す児童とそうでない児童の個人差がある。 ・漢字の定着に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学習活動を通しての取組を価値付け、児童の考えや思いから、学習計画や単元を通した問いを作成していく。 ・題材の工夫をする。児童に身近な題材を考え、書くことへの意欲をもたせる。 ・本に触れる機会の充実を図る。図書室の活用や練馬図書館と連携し、児童の実態に合った図書の充実を図る。 ・小テストを行い、漢字の定着を図る。 	○

算数	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の技能が十分とはいえない。指を使う児童が見られる。 ・問題の読み取りや立式の力が全体的に不十分である。自分で問題文を読んで意味を理解できない。 ・個人差が大きく、個別指導が必要な児童がかなりいて、支援が不十分だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日計算カードを使った計算の宿題を出し、継続的に計算練習を行わせる。 ・なかなか計算力が身に付かない児童には、具体的な操作活動を多く取り入れ、理解を助ける。 ・問題文の意味を正しく理解できるように、キーワードに着目して取り組むように支援する。 ・一斉指導とともに、進度に応じた個別課題や個別学習の場を設定する。可能な限り支援員の学習支援を得られるようにする。 	○
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・計算力には個人差が見られ、部分的に個別的な指導が必要な児童がいる。 ・計算力はあっても、文章問題の立式を苦手としている児童が一部見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や家庭学習を通して、基礎基本が身に付くよう、反復練習をさせる。 ・問題文を書くときに、分かっていることと、問われていることを確認する。必要に応じて図や絵に表すことで問題の場面を理解できるようにさせる。また、友達の式から考えを読む活動などを通して、理解を深めさせる。 	○
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に基礎的な知識や技能を習得しているが身に付いていない児童もいる。計算でのつまずきが見られる。 ・課題の意図をつかめない児童や言葉の支援が必要な児童がいる。自力解決に意欲をもち発表もすすんで行うが、解決方法を筋道立てて表現することは、まだ十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始まりの時間や家庭学習などで計算練習に取り組む。 ・教材を工夫し、アレイ図や数直線などを活用して、個々の支援を行い、積極的に問題解決に取り組めるようにする。課題の題意を捉える時間を確保し、問題を整理しながら筋道を立てるよう支援していく。 	○
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識・技能の習得に差がある。 ・自力解決のとき、既習事項をもとにして問題を解決する方法がなかなか見いだせない児童や、考えをうまく表現できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な児童に対し個別の支援を行うようにする。また、教材教具を工夫し、操作を通じて自力解決していけるようにする。継続的に計算ドリルに取り組み、基礎的な知識・技能の定着を図る。 ・既習事項をもとにして問題を解決できるように授業展開を工夫する。 ・自分なりの解決方法を見いだせるように、自力解決の時間を多く確保する。 	○
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の学習を生かし、自分の考えをノートに書いたり説明したりすることを苦手としている児童が多い。 ・正確な図形を作図することができない児童が多い。 ・基本的な計算の技能の定着が不十分な児童が多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の確認を丁寧に行い、学んだことを基に考えていけるようにする。 ・正しい器具の使い方をその都度確認し、類似問題に多く取り組む機会を設定して、定着を図る。 ・計算問題は、反復練習を行うことにより定着を図る。授業の始まりや家庭学習で反復練習をする。 	○
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識・技能の定着が不十分な児童が見られる。 ・公式などおさえるべき事項は定着しているが、公式の意味や正しい立式につなげていくことができない場面が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的基本的な学習事項を確実に身に付けさせるように、少人数指導の充実(教材の工夫、個別指導)に努める。 ・公式の意味や必要性を考え、共通認識のもとで活用できるようにしていく。いろいろな文章問題をじっくりと読み、問題場面をイメージさせながら公式の利活用の場面を増やし定着させていく。 	○